

批判的思考能力育成をめざしたクラス活動の試み —学部1年の留学生に対する実践から—

田代 ひとみ

1. はじめに

大学学部の留学生に対する日本語授業では、大学生として必要な日本語の4技能を伸ばすことが求められているが、それ以外に思考能力の育成も必要である。実際に学部留学生の授業における活動を見ていると、発表をする際に適切な情報を取捨選択して自分の考えを展開することができない、話し合いで相手の主張に対する確かな反論ができないといった問題がしばしば見られることから、論理的・批判的思考能力の育成は急務であると思われる。では、考える力を伸ばすために具体的にはどのようなことをすべきであろうか。

思考能力の育成は現在、プレゼンテーションやディスカッション、ディベート、レポート・論文作成等の活動のプロセスにおいてなされることが多い。もちろんこれらの活動が有効であることに異論はないが、こうした大きな活動だけではなく、難度が低く短い時間で取り組める小さな活動を積み重ねることも必要ではないかと思われる。特に学部1年生の中には日本語能力も思考能力も大学生としてまだ不十分な学生もおり、そのような学生にとって上記のような大きな活動は負担が大きく、結果的には単にインターネットの記述を貼り合わせたり、それを読み上げたりするだけのものになってしまう危険性もある。

そこで、本稿では上記のような問題に対処できる能力を育成するため、大学に入学して間もない学部1年の留学生を対象に行った批判的思考能力育成の活動を報告する。

2. 批判的思考とは

はじめに、思考能力を語る上でしばしば取り上げられる批判的思考について述べたい。批判的思考は英語の *critical thinking* の訳語であり、Zechmeister &

Johnson (1992)は、①問題に対して注意深く観察し、じっくり考えようとする態度、②論理的な探究法や推論の方法に関する知識、③それらの方法を適用する技術という3つの主要な要素を挙げている。この中では①が最も重要であるとしているが、これを受けて宮元他(1996)は、批判的思考とは、適切な基準や根拠に基づく、論理的で偏りのない思考であると解説している。

また、道田・宮元(1999)では批判的思考¹について、何事も無批判に信じこんでしまうのではなく、問題点を探し出して批評し、判断する点を挙げている。

この批判的思考を伸ばすための有効な手段は、Zechmeister & Johnson (1992)によれば、思考の原則を提示することであり、それは日常的な出来事を題材に練習問題について考え、答えることで、身につくとされている。道田・宮元(1999)では、4コママンガ(秋山りす著『OL 進化論』)を題材に、これをさらに平易に紹介している。マンガに登場する人物の言動について分析し、批判的思考の技法を提示するというものである。そこで、本実践ではこれをもとに活動を組み立てることとした。

3. 授業概要

3.1 活動の流れ

本活動は東京近県の私立大学学部1年生の留学生対象の授業で実施した。科目名は「総合日本語」クラスで、1回につき30分程度の活動を6回行った。クラスの人数は在籍者24名のクラス(1クラス)で、日本語能力は中級後半から上級である。

授業活動としては、4コママンガの登場人物の言動に関する問いについて考え、話し合い、書くというものである。道田・宮元(1999)をもとに作成したが、本活動では、それをそのまま解説するのではなく、マンガを提示して、批判的思考に導く質問をし、

受講者に考えさせ、書かせるという方法にした。

マンガの登場人物であれば、取り組みやすい印象を与え、また、批判的思考の対象が実在の人物や同じクラスの学生ではないため、気兼ねなく問題点を指摘することが可能であると考えられる。

さらに、ここで扱われているのは政治・経済・社会のような知識を必要とする話題ではなく、日常生活でよく見かけたり、体験したりする出来事である。このような題材であれば知識の多少にかかわらず誰でも取り組むことができると考えられたため、ここで取りあげられたマンガを使うこととした。

授業で課題としたのは以下のような題材である（「」内は各マンガの題名）。

- 1 回目：「青春のトライアル」原因の推測を例に批判的思考とは何かについて解説する。
- 2 回目：「父さんの真実」情報を吟味し、取捨選択をする。
- 3 回目：「パパの失敗」いろいろな可能性を考えた上で結論を出す。
- 4 回目：「妻の予感」整合性に注目する。事実と一致し、矛盾しないよう理屈を考える。
- 5 回目：「普通の人々」理由が理由となっていない議論に気づく。
- 6 回目「選択基準」4分割表²「的に」考える。
仮説を比較し、検討する。

例として、5 回目「普通の人々」という題名の 4 コママンガのストーリーを挙げる。

妻とともに夏用の半ズボンを買いにスーパーに行った夫が、バーゲンセール売り場で、同じマンションに住む夫婦に次々と出会ってしまう。4 コマ目で「上の部屋のダンナ、下の部屋のダンナ みんなでおそろいか」とぼやく夫に対し、妻が「いいじゃないのー 住んでいるのも同じ間取りの 3 LDK なんだし」と説得するという内容である。この項は、道田・宮元(1999)では「間違った議論」の 1 つ「理由が理由になっていない議論」の例となっている。授業ではこのマンガを提示し、「4 コマ目で奥さんがご主人に言っていることについて、納得できますか。」という質問について話し合い、自分の考えを書くことを課した。

3.2 各回の活動内容

各回の具体的な活動の流れは以下の通りである。

①タスクシートを配布し、マンガのストーリー、言葉の意味、文化的側面の理解の確認を行う。

タスクシートには 4 コママンガとそれに関する質問、その解答を書くスペースをつけた。また、マンガにはくだけた話し言葉が使用されることが多く、また日本社会・慣習・文化についての理解が必要であるため、誤解が生じないよう、全員で確認を行った。

②シートの質問について確認する。

シートの質問の意味がわからない場合は説明をした。

③3、4 人のグループで話し合いを行う。

1 人で考えているだけでは限られた範囲でしか物事が見られないことがあるため、複数の学生と話し合い、異なる考え方に触れさせるようにした。

④自分の考えを書く。

口頭で話し合っただけで答えたつもりになるということ为了避免、文章化し、自分の考え方に不足している点はないか、矛盾点はないか等に留意し、検討させた。同時に必要な表現も定着させるようにした。なお、書くスペースは 200-300 字程度の負担のない長さにした。

フィードバックとしては各活動の翌週に以下の①と④を毎回行い、課題が難しかった場合は②や③を行った。

①日本語を訂正し、コメントを記入したシートを返却する。

②1 回目とは別のグループで話し合う。

③再度、書く。

④よく書けている文章 2,3 例をコピーし、配布する。

⑤当該のマンガでは批判的思考のどのようなポイントを説明しようとしたかを紹介する。

3.3 活動のねらい

本活動では以下の 2 点の能力の向上を目指した。

1. 日常生活で見られる言動について批判的に考えることにより、大学生として必要な、批判的思考の技法を身につける。

2. 自分の考えを適切な日本語で論理的に述べる能力を身につける。

1 点目のみならず、2 点目もねらいとしたのは、日本語の運用能力、特に論理的表現の向上をはかることによって、自分の考えを容易に表現でき、結果的に論理的思考も深めることができると思われたためである。

田代(2007)では、中級日本語学習者の意見文で使用される論理的表現を分析し、そこでは譲歩・仮定の条件表現の使用が母語話者に比べて少ないことが明らかになった。これは母語話者の母語の文化が意

見文の述べ方に影響を与えている可能性もあるものの、論理的表現の一部が非用となっているということが考えられる。そこで、本活動を通じて、理解はできるが、運用にまで至らない表現を、実際の運用ができるレベルにまで引き上げられるようにしようとした。

4. 実践の結果と考察

ここでは、各回の作文で見られた内容の分析、および活動終了後のアンケート（記述式）の分析を述べる。

4.1 作文の内容の分析と考察

再び3.1に挙げた「普通の人々」という題材の作文を例に、妻が夫に対して言ったことが納得できるかどうかという質問に対して書かれた作文の内容の分析を行いたい。

まず、多かったのは「理由として納得できない。なぜなら、住んでいる所が同じだからといって必ずしも半ズボンまで同じものを買うという理由はだとう（妥当）性がなく、他の理由があるとおもうからである。」といった理由を挙げた作文である。

また、妻の言うことに納得できるとしたものとでは「みんな同じところに住んでいて、金持ちほどだいたい同じである（→同じ生活スタイルである）。だから、お金を無駄にしない生活したほうがいいと思う。男は何を着ても大丈夫だから、安い方がいいと思う。」という作文もあった。これは、道田・宮元(1999)で批判的思考の技法とされている指摘とは異なる考えであるが、自分の考えを論理的に述べているため、1つの考えとして認めることができる。

さらに、この夫婦のやりとりから、「わたしは世界化（→グローバル化）による大量生産と大量消費のことを思い出した。マンガのタイトルが普通の人々のように、そういう時代では巨大資本に影響を受けるのは“普通の人々”だと思っている。つまり、みんな個性を生かさないうで、規格なロボットと同じように同じまどりのマンション、同じ既製品をきるみたいに見えない巨大な手によって操縦されている気がする。」という作文もあった。これは、質問に対する答えとしては適切ではないものの、独自の見解を述べているとみなせる。

一方、表面的な感想にとどまっているものもあった。妻の答えについて、「納得できません。奥さんがそういうこと言ったら、ダンナさまが絶対に心が

冷えると思います。たとえば普通の人々でも豊富な（→豊かな）生活を過ごすのが必要だと思います。」という例が見られた。これは、夫婦のやりとりの内容自体を考えて批判的思考をするのではなく、これをきっかけに考えを深めるのではなく、表面的な感想にとどまっていると言えるのではないだろうか。したがって、この回においてこの書き手は批判的に考えを深めるところまでは至らなかったと考えられる。

このほか、活動を開始時期には、マンガのストーリー説明にとどまり、人物の言動について批判的に考えることをしていない作文も見られた。

以上、1つの課題について書かれた作文を例に、本活動が受講生にどのように受け止められ、自分の考えを作文にどのように表現したかを見た。各回の批判的思考の技法については、フィードバック時に提示するので、話し合いと作文の段階では、考えを自由に表現させたが、以上のような傾向が見られた。題材の難しさの違いによっても異なるが、この課題についての質問の作り方が話し合い、作文に大きく影響するので、その改善が課題と言えよう。

4.2 活動終了後のアンケートの分析と考察

活動終了時にアンケートを行った。この活動の有効性について質問したところ、20名中15名から肯定的な評価を得た。理由として、一つの物事について多角的角度からいろいろな意見が聞けた、問題について慎重に考えるようになったというのが見られた。また、考えながら自分の意見を表現するうちに日本語の能力も伸びたという言語面への言及もあった。このほか常識・非常識を見直す機会になったという声もあった。

アンケートではクラスメートとの内容についての話し合いで、自分の考えが深まったかどうかについても聞いたが、肯定的評価をした回答者からはこれに関しても肯定的であった。いろいろな人の意見が聞けて自分の視野が広まった、考え方が変わった、という理由が多い。また、フィードバック時に配布された、よく書けている文章例のプリントを読んで、自分の言いたいことが正しい日本語で書いてあることに気づいたという指摘もあった。

一方、否定的な回答としては「マンガの意味がわからない」「マンガがおもしろくない」という意見が4名から出た。本活動ではマンガの可笑しさに気づくことより、日常生活でよく経験する考え方につ

いて、改めて考えることを目的としているが、マンガというと、まず前者に注目してしまうようである。本活動で題材となっているマンガは一般的な内容で、英訳版も出版されていることから、異文化を持つ読み手にも比較的受け入れられやすい内容であると思われたが、マンガの理解は個人差があるようである。こうした回答者からは、クラスメートとの話し合いについても、意味がわからないから話し合うことがあまりないという答えが見られた。このように意味がわからないと、先の活動も困難になる可能性がある³ため、今後は、説明を丁寧に行うなどの改善が必要であることが示唆された。

また、大学の授業でマンガを題材に批判的思考の練習をすることに違和感・抵抗感を感じる意見というもの1例あった。これも、なぜマンガを使用して批判的思考の練習をするかについての説明が伝わっていなかったことが考えられる。活動の第1回目にも目的・意義についてよく説明する必要があることがわかった。

5. まとめと今後の課題

今回の実施から、クリティカルシンキングの活動の可能性として以下の2点が挙げられる。

第1に、ものごとを多角的な角度から考える習慣、情報を慎重に吟味する習慣を身につけるきっかけとなりうるということである。ただ単に情報を探し、それを無批判に受け止めるだけでなく、情報について詳しく検討し、そこに論理的な欠陥はないかといったことに意識的になることが期待される。

第2に、自分の考えを日本語で論理的に述べる練習になるということである。学部1年生の中には、母語でなら高度な思考もできるが、外国語を使うと、思考低下が起きることがある。その原因は、外国語を操作するという言語的側面にワーキングメモリーが多く費やされ、内容に関して思考するメモリーが減少してしまうことによると言われている(高野2002)。それに対処するには、言語面の処理ができ

るだけ自動化されることであるが、本活動のような小さな練習を数回行うことにより、論理的な表現を身につけることができるのではないかとと思われる。これはアンケート結果からも示唆された。

この活動をより効果的に行うためには、初回でこの活動の目的、意義をよく説明して受講者の理解を得ること、課題につける質問を改善すること、また、マンガについて表現・文化的側面の説明を十分に行うことが重要である。

今後の課題としては、作文データが回を重ねることによってどのように変化したかを見ること、また受講者からアンケート・インタビューを行い、質的分析を試みる事が挙げられる。

注

1. 「批判的思考」と漢字表記をすると、他人の主張の欠点や不備をあら探しして、けなすようなことであるという誤解がしばしば起きる。道田・宮元(1999)ではそれを避けるため、「クリティカルシンキング」という語を使用している。
2. 4分割表とは、2×2の4つのマス目でできた表で、仮説の比較を容易にすることができる
3. アンケートは無記名で行ったので、「わからない」と答えた学生が書いた作文がどのようなものであるかは、判明しなかった。

参考文献

- 高野陽太郎(2002)「外国語を使うとき—思考力の一時的な低下」海保博之・柏崎秀子編『日本語教育のための心理学』新曜社
- 田代ひとみ(2007)「中級日本語学習者の意見文における論理的表現」横浜国立大学留学生センター『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』(第14号)
- 道田泰司・宮元博章(1999)『クリティカル進化論—「OL進化論」で学ぶ思考の方法』新曜社
- Zechmeister, E.B., Johnson, J.E.(1992) *Critical Thinking A Functional Approach*, Wadsworth: A Division of International Thompson Publishing Inc. (宮元博章・道田泰司・谷口高士・菊池聡訳 1996『クリティカル シンキング《入門編》』北大路書房)

たしろ ひとみ/東京外国語大学 留学生日本語教育センター非常勤講師
0132196411 @jcom.home.ne.jp